

# 建築設備技術遺産に3件

## JABMEE 6月23日に認定式



新晃SRD型エアディフューザ

建築設備技術者協会(JABMEE、野部達夫会長)は、建築設備の「技術」「役割」「文化」を多くの人たちに知ってもらうことを目的に選定している「建築設備技術遺産」の17年度認定遺産を決めた。認定委員会(委員長・鎌田元康東、大名誉教授)が「新晃SRD型エアディフューザ」

(新晃工業)など3件を認定した。認定式は、6月23日に東京都港区の明治記念館で開く総会の終了後に行



ホーム分電函

われる。

認定されたのは、▽新晃SRD型エアディフューザ  
▽ホーム分電函(BBK-3)▽TOTOMIミュージアム所蔵の光電センサー内蔵



TOTOMIミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓

自動水栓の3件。

建築設備技術遺産は、空調・衛生・電気・搬送の4領域に関する技術と技術者の歴史的な足跡を示す「事物」「資料」が認定対象で、今回が6回目の認定。

今回認定された3件の管理者は次の通り。  
▽新晃SRD型エアディフューザ||新晃工業  
▽ホーム分電函(BBK-3)||河村電器産業  
▽TOTOMIミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓||TOTOMIミュージアム。

# JABMEE 17年度の建築設備技術遺産 3領域・3件を認定

建築設備技術者協会(JABMEE、野部達夫会長)は2017年度の建築設備技術遺産として新晃工業のSRD型エアディフューザなど3件を認定した。6月23日の通常総会後に認定証授与式を行う。

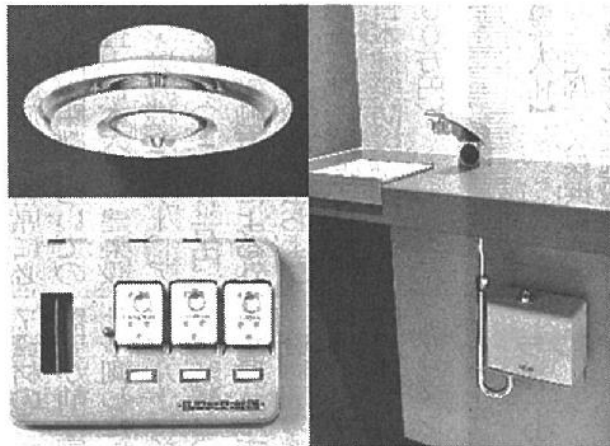
建築設備部門の技術と設備関連情報などを次世代に伝えることを目的に12年度にスタートした認定制度で、これまでに29件を認定した。6回目の今回は▽空調領域▽電気領域▽衛生領域の3領域で1件ずつ認定し、技術遺産は合計32件となった。

建築設備技術遺産認定委員長の鎌田元康(東京大学名誉教授)は「文献やカタログが残っている設備を審議し認定する。歴史的設備でも建物の解体時に知らずに処分されてしまうことがある。使われていない設備でも大切に残すことができれば」と話す。

今回の認定技術遺産は次の3件(①管理者②所有者③講評)。

▽認定第28号・新晃SRD型エアディフューザ  
①新晃工業②同③1962年竣工の住友ビル本館に約7000個設置された吹出・吸込兼用の風量調整機構付エアディフューザ。オフィスのモジ

ユール化、空調環境制御果たした。SDRはSupply Return Damp



新晃SRD型エアディフューザ(左上)、ホーム分電函(左下)、自動水栓全体像(右)

erの頭文字。▽認定第29号・ホーム分電函  
①河村電器産業②同③住宅引き込み口の過電流保護のカットアウトスイッチを収納し、感電や火災防止などの電気安全に大きく寄与した。現在の住宅用分電盤の原型となった。

▽認定第30号・TOT Oミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓  
①TOT Oミュージアム②同③医科用などで普及していたセンサー付き水栓に、その後開発された小型の光電センサーを組み込んだ。節水性と衛生性が向上した他、清掃が楽であるなどの利点もあって広く用いられるようになり、自動水栓の開発と普及、技術の進歩に寄与した。

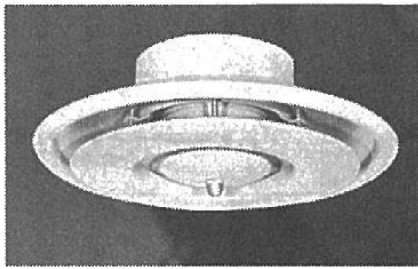
## 建築設備遺産新たに3件

### エアディフューザなど認定

JABMEE

建築設備技術者協会(JABMEE、野部達夫会長)は、17年度の建築設備遺産として、これまでに認定した29件(特別認定2件含む)に加え新たに3件を認定した。同認定制度は、建築設備技術を次世代に伝えることなどを目的に2012年度に創設したもので、今年で6回目。

今回の認定は、空調・



新晃SRD型エアディフューザ

電気・衛生の3領域から各1件の計3件。空調領域からは認定第28号「新晃SRD型エアディフューザ」(管理者・所有者「新晃工業」、電気領域から認定第29号「ホーム分電箱(BBK-3)」(管理者・所有者「河村電器産業」、衛生領域か

ら認定第30号「TOTOミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓」(管理者・所有者「TOTOミュージアム」。新晃SRD型エアディフューザは、55年前に採用された空調制気口。オフィスモジュール化初期の製品で、技術遺産として認定評価された。

認定証授与式を6月23日の通常総会終了後に行う。

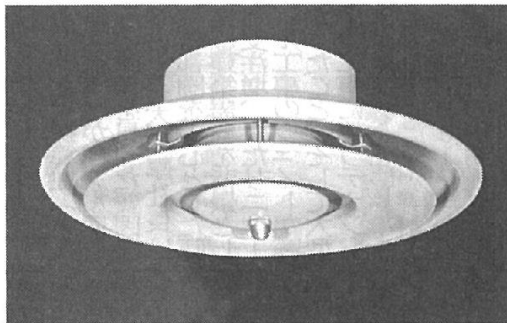
# 55年前のデیفューザ

J A B M E E が建築設備技術遺産に認定

## 吹出・吸込兼用の新晃SRD型

一般社団法人建築設備技術者協会（略称J A B M E E。会長野部達夫氏）は16日、平成29年度建築設備技術遺産を認定したと発表した。

「建築設備技術遺産」認定制度は、2012（平成24）年度に始まり、今年で6回目を迎える。空調領域・電気領域・衛生領域の3領域で各1件の物件を認定した。空調領域で認定されたのは、オフィスのモジュール化の初期における個別完結性・良好な空調環



新晃SRD型エアードیفューザ

境をつくるために開発された、吹出・吸込兼用の風量調整機構付きエアードیفューザ「新晃SRD型（昭和37）年竣工の住友ビル本館に全面採用された。当時としては斬新なインテリア3層×3層モジュールに約7千個設置され、現在も住友グループの代表的な建物に設置され続けている。製品名の「S

D型エアードیفューザ」（管理者・所有者＝新晃工業）。55年前の1962（昭和37）年竣工の住友ビル本館に全面採用された。当時としては斬新なインテリア3層×3層モジュールに約7千個設置され、現在も住友グループの代表的な建物に設置され続けている。製品名の「S

R D」とはSupply - Return - Damperの頭文字。一つの空調制気口で吹出・吸込（周りが吹出中央部が吸込）を行い、吹出・吸込ともに風量調整（コーンの上げ下げによる）ができる機構を内蔵。形状は丸型アネモスタットに近似している。このデیفューザの上に専用ボックスを設置し、サブライダクトとリターンダクトが接続される。当時のカタログに記載されている特長は、間仕切りへの自在性、室内気流分布の均一性、室内温度・湿度の均一性、風量調整の自在性。どれもオフィスのモジュール化、空調環境制御要素として重要な事項である。この

デیفューザ以後、オフィスのモジュールに対応した風量制御（VAV等）、天井吹出空気の流れ等の技術が発展、普及し現在に至っている。当時の製品が新晃工業SINKOテクニカルセンターショールームに展示されており、見学が可能。

能。55年前のオフィスのモジュール化初期の製品として、建築設備技術遺産として認定に値するものとされ、認定第28号となった。

このほか電気分野では住宅用分電盤の原型となった「ホーム分電函（BK-3）」（管理者・所有者＝河村電器産業）、衛生領域では洗面・手洗い自動水栓のニーズを掘り起こし普及のきっかけとなった「TOTOMI ユーザム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓（管理者・所有者＝TOTOMI ミュージアム）が認定された。



# 技術遺産3件認定

JABMEE

建築設備技術者協会(JABMEE)は16日、2017年度建築設備技術遺産を発表した。6回目の今回は、空調領域・電気領域・衛生領域の3領域で各1件ずつ認定した。

空調領域では1962年に竣工した住友ビル本館に設置された「新晃SRD型エアデューザー」を選定した。風量制御、天井吹き出し空気の拡散性などの技術への貢献が高い評価を受けた。電気領域は60年代に開発された「ホーム分電函」を選んだ。鉄製の箱にカットアウトスイッチを収納し、安全性・保守性・生産性を向上した現在の住宅用電盤の原型として評価された。衛生領域では「TOTOミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓」を選定した。84年に発売された自動水栓で、自動式器具普及、光電センサーや駆動部の技術進歩に貢献した点が評価された。審査委員長を務めた鎌田元



SRD型エアデューザー



ホーム分電函



自動水栓本体

## 設備機器保存の動きが活発

康東大名誉教授は「受賞作はいずれも設備機器の根本に戻った取り組みであり、以前よりも設備機器を保存しようとする動きが活発化しているように感じる」と総評した。認定証授与式は6月23日に開催する通常総会後に開催する。

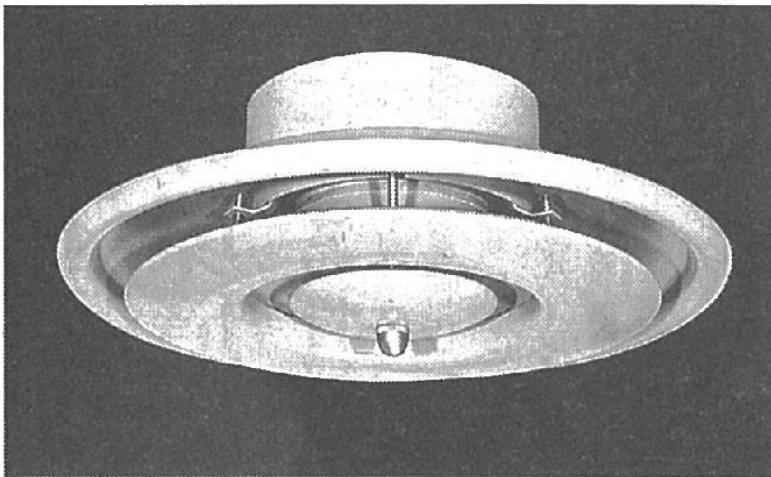
管理者は次のとおり。

▽新晃SRD型エアデューザー▽新晃工業▽ホーム分電函▽河村電器産業▽TOTOミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓▽TOTOミュージアム

# 新晃工業のエアードイフューザなど 建築設備技術遺産に 新たに3件を認定

建築設備技術者協会

(一社) 建築設備技術者協会 (JABME)、会長・野部達夫氏) は、このほど平成二十九年度の建築設備技術遺産として、これまでに認定した二十九件(特



新晃SR型エアードイフューザ

(管理者・所有者) 河村電器産業)、認定第三十号「TOTOMI ユーシウム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓」(管理者・所有者) TOTOMI ユーシウム)。  
このうち新晃工業の「新晃SRD型エ

別認定二件を含む) に加え新たに三件を認定した。建築設備技術遺産認定制度は、建築設備部門の技術や関連情報、設備を建物に収めてきた技術を次世代に伝えるとともに、建築設備の技術、役割、文化を多くの人に広めていくことを目

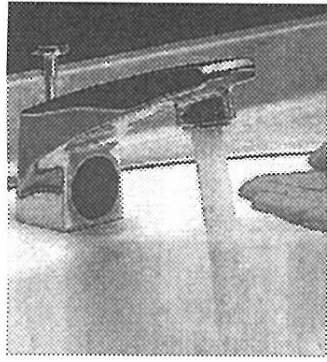
的に平成二十四年度に創設されたもので、今年で六回目となる。今回、認定されたのは、認定第二十八号「新晃SR D型エアードイフューザ」(管理者・所有者) 新晃工業)、認定第二十九号「ホーム分電函(BBK-13)」

「エアードイフューザ」は、オフィスでのモジュール化の初期における、個別完結性、良好な空調環境をつくるために開発された制気口。以後オフィスでのモジュールに対応した風量制御(VAV等)、天井吹出し空気の拡散性等の技術が発展、普及し現在に至っている。

## 建築設備技術遺産に認定

### TOTO 光電センサー内蔵自動水栓

TOTO(株)(喜多村円社長)が運営するTOTOコミュニティアム所蔵の



「光電センサー内蔵自動水栓」II写真上IIが、一般社団法人建築設備技術者協会(野部達夫会長)の平成二十九年度「建築設備技術遺産」に認定された。パブリックトイレの洗面所に求められる節水・衛生性(非接触)を

実現した。

同製品はパブリックトイレ普及のきっかけとなった光電センサー内蔵型の自動水栓。光電センサーや駆動部の技術進歩の原点となり、今やパブリックトイレ洗面所への設置だけでなく、家庭用水栓への流用など大きく影響をおよぼしたことから、建築設備として価値ある製品と認められた。